



特集

農業者の所得増大と 農業生産の 拡大に向けて



副本部長
小原 俊英



季節のエッセー いわての野草

文・澤口 たまみ
絵・永澤 美貴子

「タケニグサ」

(ケシ科)

この草の種子には「種冠」と呼ばれる白いゼリー状の塊がくっついており、アリたちの大好物になっている。タケニグサをはじめとして、ケシ科に属する植物の多くは、アリにエサを提供するかわりに、種子を運んでもらうという戦略を持っているのである。そしてどうやら、ケシ科植物の種類によって、その種子を運ぶアリの種類も、ほぼ決まっているらしく、タケニグサの生えている場所と、ある種のアリの巣が分布する場所とは、おおよそ一致するという。地球上に昆虫が現れたのは、今から三億年前。それからの長い年月を、ともに進化してきた昆虫と植物の間には、何とも奇妙なくみがかがかったものである。ところで、このタケニグサ、茎や葉を切ったときに出る黄色い汁が有毒で、かつては殺虫剤として使われていた。

参考資料:澤口たまみ著『岩手の野草百科』(岩手日報社発行)より

純情産地発 クララー KLARA vol.805 2016.8

みんなの力で!



がんばろう!岩手
純情産地いわて

contents

季節のエッセー いわての野草	02	みんなの分教場	07
特集 農業者の所得増大と農業生産の拡大に向けて	03	報告! 出向く活動班	08
消費地だより	06	純情人	09
JAタウン いわて純情館	06	純情むすめ活動記	09
		ニュースワイドアングル	10

タイトルのKlara (クララー) は、宮沢賢治の手帳に書かれている言葉で、 에스ぺ란토 語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

1. はじめに

今年度より新たな3か年計画(平成28年度～30年度)がスタートいたしました。今次3か年計画の最終目標は「農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化」の3点であります。この目標に向けた、特にも販売面での新たな取り組みをご紹介します。

2. 各部門の取組概要

(1) 管理部

ア.「JA全農」への理解醸成に向けた情報発信力強化

「PPP問題」や「農協改革」等、農政をめぐる種々の課題が山積されるなか、生産者消費者の皆様はもちろんのこと、広く県民・国民から支持され続ける「JA全農」であり続けるために、管理部門として以下の取り組みを実施します。

- ① 定型的情報発信やパブリシティ効果の高い各種イベントへの協賛を通じた、企業理解・評価・認知度の向上。
- ② 広報誌「クララ」やホームページ、SNSを活用したタイムリーな情報発信力強化。
- ③ 新たなスポーツ大会などへの協賛や農業体験イベント実施による次世代および保護者・指導者等に向けた「JA全農」ファンづくり活動の拡充。
- ④ 県内農業高校との取り組みを通じた、将来の農業担い手への理解醸成。

これらのSR活動を重点的に実施することで、日本の「食」を支えている「JA全農」が取り組んでいる事業の成果や経過を広く目に見える形でPRし、理解と認知度を向上させることで「JA全農」ファンの拡大を図ります。

イ.「純情産地」について「ブランド」にかかる広報宣伝力強化

本県産農畜産物の更なる消費拡大を目的に、生産者と消費者をむすぶ本県統一ブランド「純情」等々による実需者との長期安定的な取引の拡充に取り組めます。

具体的には、主要産地として10万ト(見える化率80%)以上の主食用米の安定的供給を目指し、結び付きを促進、多様な契約販売手法による安定販売を実施していきます。

イ.県オリジナル新品種のブランド化による販売強化

岩手県と連携し新品種「銀河のしずく」岩手118号」のブランド化を推進することで、新たな需要を確保するとともに、実需からの本県産米の全体評価の底上げを図ります。

なお、新品種は、関係機関と連携をとりながら、「特A評価」の継続取得を基本に、品質・食味ともに全国トップクラスの評価を獲得し、新しい岩手の顔として、県内外から広く愛されるお米を目指します。

また、プロモーション展開は、重点エリアを県外(首都圏)とし、全国の消費者をターゲットとし、知名度向上と良食味の訴求を主として、効果的な宣伝対策を実施します。

(4) 園芸部

ア. 契約取引拡大

取引先ニーズへの対応と生産者収益の確保を目的に契約取引(値決めルート販売)を強化拡大していきます。

野菜については本県の特徴である多品目産地を最大限活かすため、品目セットによる産地直送販売を拡大しています。これは産地からダイレクトに量販店集配センターに直納するもので、取引先バイヤー等からは産地で多品目が揃うことや鮮度面からも好評価をいただいております。また、野菜需要の6割を占める加工業務用野菜の拡大も重点施策として取組強化をしていきます。特にカットサラダ用のレタス・キャベツや国産志向がより強まっているタマネギを重点品目と位置づけ契約

産地「いわて」を広く発信する以下の取り組みを実施します。

- ① 県内消費者に向けた新規直販事業の実施。
県産米の消費拡大を第1の目的に、新たな「純情産地」いわて「ブランド」発信拠点とするべく、本年6月、初の県本部直営外食店舗「いわて純情米の店『銀河食堂』」を開業しました。「銀河食堂」では県オリジナル新品種「銀河のしずく」を全国に先駆けて提供する他、「いわて純情米」の食べ比べや四季折々の県産・国産農畜産物を使用したメニューを提供、「純情産地」いわて「ブランド」の美味しさを魅力を味わって頂くことが出来ます。
- ② 県内外での広報宣伝活動の拡充
各種メディアや今年度新機軸として設置された消費地販売部と連携し、県内外でのフェア対応や総合販売企画活動を充実させ、幅広い形で「純情産地」いわて「ブランド」の魅力発信に努めます。

(2) 消費地販売部

①「マーケットイン」戦略強化による県産農畜産物の販路拡大、②総合販売企画の実践を通じた「純情産地」いわて「ブランド」の底上げ、③生産者(JA組合員)と消費者・実需者との懸け橋機能の最大化を3か年計画の事業方針に掲げ、農家組合員の所得増大の実現に向けた、県産農畜産物のトータル販売結び付けを実践していきます。

ア.総合販売力の強化

今年度から、消費地における「県産農畜産物」の販売体制を、部門別(米穀・園芸・畜産)推進体制から相互連携による品目横断的な推進体制へ転換し、部門を超えた業務推進に取り組んでいます。同時に各部門が連携し、積極的に「オールいわた」での商品提案や宣伝・販促等を実践し、県産農畜産物の優位性を堅持しながら、「純情産地」いわて」として総合的な産地ブランドの底上げを図っています。更に、事業基本方針としての「プロダクトアウト」から「マーケットイン」への事業転換

生産販売を拡大していきます。

りんとについても早生種から晩成種まで契約取引を実施していますが、近年は新たに鮮度保持技術(スマートフレッシュ)が確立され、ジョナゴールドの長期販売やシナノゴールドの越年販売による契約取引を拡大しています。また、県オリジナル品種の紅ロマン紅いわて冬恋はるかも成木化により生産量が増大しており、買取中心に販売強化をしています。県産サンフジは、各JAとも地域ブランド化が図られ、商品力が高まっており、百貨店や生協中心に贈答用として契約拡大しています。花きについてはりんどう・小菊中心に旧盆と彼岸の物日需要に十分に対応するため新重点市場を設定し、要望数量とおりの予約相対販売を実現し産地力強化をすすめます。

イ.買取販売の拡大

契約取引の新たな手法として、園芸部では一層の生産維持・拡充と販売価格安定による生産者収益の確保を目的に買取販売を拡大してまいります。これは①マーケットインによる新品目や新規格品の買取。②産地育成のための買取。③周年産地を目指すための秋冬野菜の買取です。

これには新規生産者、若い担い手、集落組織での初の栽培取組が多く、栽培にかかる初期投資費用やニーズにもとづく商品ができるか等リスクも発生します。これらの取組が持続・拡大するための一助として本会が一定の数量(全量買取もありません)。一定の単価で買取らせていただき実施をするものです。

また、大型生産者に対しても買取提案を積極的にこなすて行きます。
28年度計画では野菜3億円、果実2億円の買取を計画しています。

(5) 畜産酪農部

ア. 肥育素牛・妊娠牛供給事業

平成27年10月より開始した、不受胎の搾乳牛

を行い、生産者の手取りアップとなる「魅力ある商品」の提案と「消費者ニーズ」をいち早く産地に伝達するよう努めます。

イ.生産者・消費者との結び付け強化

生産者(JA組合員)と消費者・実需者との懸け橋機能の最大化を目的に、各部門において①産地(生産者・JA)と消費地(卸実需者)の産地交流会(実需者訪問を含む)や消費地イベントの開催。②生産者と重点市場間における品目別品質評価と情報交換会の開催。③各種研究会や共励会等による実需者との情報交換会の開催。④JA組合長や行政の首長によるトップセールスの開催など、現状の事業・イベントを含めた中で、自ら生産(集荷)されたものが「誰に(実需者)」「どの様に(流通業者)」に販売されているのか。「品質」はどう評価されているのか。更に深掘し、「何をどれだけ」求められているか。といった消費地情報をリアルタイムに提供、実感できる土台づくりを関係部署・機関と連携し強化対応していきます。

(3) 米穀部

ア.安定取引に向けた「見える化」(実需者・産地との結び付け)促進

食の多様化が更に進み、中食・外食など業務用需要が伸長する状況をふまえ、実需者と産地(JA)とのマッチング機能強化を進めることで「見える化」を促進するとともに事前契約(複数年・播種前・収穫前

用途	業態	27年度計画		需要	30年度目標	
		シェア	必要		シェア	必要
家庭用	量販店	24,000	19.2%	→	24,000	19.2%
	生協	16,000	12.8%	→	16,000	12.8%
	計①	40,000	32.0%		40,000	32.0%
業務用	中食(CVS・持帰弁当等)	30,000	24.0%	↗	35,000	28.0%
	外食(寿司・丼・レストラン等)	20,000	16.0%	↗	25,000	20.0%
	計②	50,000	40.0%		60,000	48.0%
小計	③(①+②)	90,000	72.0%		100,000	80.0%
	変動要素④	35,000	28.0%		25,000	20.0%
合計	⑤(③+④)	125,000	100.0%		125,000	100.0%

への借り腹によるET産子が分娩を開始しました。その産子を引取り育成し、和牛改良センターの産子と併せて8ヶ月齢程度で肥育素牛として岩手県農協肉牛経営者連絡協議会の会員を対象に10月より月々15頭程度供給することとしています。供給価格は借り腹料(F1スモール価格)十育成費(雌200千円、去勢300千円)。未曽有の子牛高騰相場で急騰している生産費の圧縮に寄与できる取り組みだと考えています。また、全国的にも減少傾向にある繁殖生産基盤対策の一助となるよう、借り腹によるET産子を中心に初妊牛を造成し、平成30年度の供給開始を目指します。

イ.和牛農家採卵事業

和牛繁殖牛が分娩後妊娠するまでの間に採卵し、採取された受精卵は全農が買い取ることで繁殖農家の所得向上を図るとともに、近年供給不足となっている和牛受精卵の製造を強化し生産基盤の維持にも寄与します。なお、東北地区では今年度2000個(採卵牛約200頭)の受精卵の生産を計画しています。

3. おわりに

国内消費動向の多様化や「PPP問題」の行方、また「農協改革」に端を発した農政の転換等、めまぐるしく事業環境が変化していく現状にあつて、農家組合員・会員JA・消費者をはじめ、広く県民・国民の皆様迅速かつ明確に「自己改革」を中心とした本会の事業成果を、示すことが今まさに求められています。国内有数の食糧生産基地である本県の目指す姿である「純情産地」の確立と、今次3か年計画での最大目標である「農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化」達成に向けて、間断なく新しい取り組みに挑戦し続けて参りますので、引き続き本会事業へのご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

みんなの分教場



営農対策部 営農技術課
技術主管
高橋 伸夫

水稻育苗コストの低減について

(1) 直播栽培 育苗コスト低減技術の選択

本県の直播栽培は、平成27年には1126畝と年々拡大してきていますが、水稻作付面積の2%程度に過ぎず、移植栽培がまだまだ主流となっています。直播栽培は、育苗作業が省略できるとともに、出穂が遅いため、移植作業と組み合わせることで田植え作業期間、刈取り作業期間の労働ピークを平準化出来ることから今のところ移植栽培との組合せでメリットが発揮できる栽培法と云えます。

■表1 育苗～田植までの水稻作業別労働時間 (H26水稻生産費調査、全国作付け規模別：農水省)

区分	規模別10a当り投下労働時間(hr)			
	3～5ha平均	5～10ha平均	10ha以上平均	
水稻作業全体 a	22.6	17.72	15.73	
うち	種子予措	0.24	0.19	0.18
	育苗	2.94	2.85	3.12
	田植	2.85	2.62	2.18
	計 b	6.03	5.66	5.48
b/a(%)	26.7	31.9	34.8	

等様々な課題に対応するため、育苗を要しない直播栽培の導入が急速に進展してきました。

水稻育苗コストの低減

日本の稲作は移植栽培が殆どを占め、先による機械移植技術の開発・改良は稲作の歴史そのものでもありました。

しかしながら、稲作を巡る構造は大きく変化し、米価の低迷等により収益構造が悪化してきておりコストの低減が急務となっています。特に移植栽培中心の稲作経営では大規模になる

ほど全体の労働時間は低下していますが、育苗に要する労働時間の低減は大きく進んでいないのが実情です。(表1)

最近では、高齢化により育苗・田植期間の労働力不足、規模拡大することによって現実問題として育苗施設が不足してきたこと

(2) 疎植栽培 主流である移植栽培のコスト低減策として疎



図2 出芽長



図3 ハウス置床の状態



図4 乳苗播種15日目(左)と慣行中苗(右)



図5 ハウス置床の状態

(3) 課題 以上のような結果となり現在圃場調査を継続しています。この方法は移植栽培における育苗コストの低減方法の一つとして期待が持てる技術ですが、育苗日数の限界、寒冷地における活着の良否と茎数確保対策、品種の特性に応じた栽培方法等様々な課題があり今後の研究機関の成果が待たれるところです。

乳苗育苗の取組み事例

(1) 取組みの考え方 ①既存の播種機、育苗施設、田植機が使用できること②慣行育苗と同様の育苗管理が可能なこと③特別な施設、資材、環境が不要なこと、を基本にJAいわて中央管内の担い手農家の協力を得て取組みました。

(2) 取組み結果 育苗を行った結果、①播種量は箱当たり200gが最大量であった②育苗器の加温時間は67時間では鞘葉長が長い苗箱の持ち上げがあった③育苗期間15日では草丈9～11cm、葉齢2葉の苗が出来、胚乳は少し残存していた④苗のマット形成は良好であった⑤慣行中苗よりも苗箱重は1kg程度軽くなった⑥1株植え付け本数4～42本では、坪60株、坪45株設定でそれぞれ12箱/10㎡、9箱/10㎡となった⑦慣行中苗は坪50株設定で20箱/10㎡(図1～4)

植栽培が増加しています。植付け間隔を広げ、苗箱数を減らす方法です。疎植栽培では1株の分けつが遅くまで旺盛に発生するため穂数が多くなりますが、株内の登熟の差が品質にどう影響するのか不明な点もあります。幸い、ここ10年間は登熟期間の気象条件が良好に推移しているため影響が見えず、現場では飼料用米の栽培で増えているようです。

(3) 乳苗移植栽培

苗箱の播種量を増やし、育苗期間を短縮した乳苗育苗(密播)が始まっています。

乳苗(100g)を、150g(1.5箱)～180g(箱)よりもさらに厚播きにし、育苗期間を10日～15日程度で移植する方法で、田植機の縦横のかきとり回数を増やし、苗箱数を減らす方法です。乳苗というが如く、初め胚乳養分がまだ残存している葉齢1～2葉の幼苗を移植するため、倍土量が削減でき苗箱重量も軽いため育苗・田

(4) 栽培方法の選択

直播栽培や乳苗移植栽培は、単独で行えば作業が集中するため、品種用途、作付規模や育苗施設、労働力等を勘案しながら、それぞれのメリットが最大限生かせる組み合わせを選択する必要があります。

植えまでの苗箱運搬作業が軽労化するメリットもあります。



達増知事と「いわて純情むすめ」「いわてまるごとおもてなし隊」



鮮やかに彩られた「いわて純情野菜」

消費地販売部の所在地である東京は、毎日のように都知事選が話題となっています。30℃を超す真夏日も珍しくなくなりました。これから夏本番、園芸の夏がやって参ります。熱中症等が騒がれる時期となりますので、水分補給や過度な休憩等を忘れず体調管理には十分気を付けて頂きますようお願い申し上げます。

7月20日(水)東京・大田市場内にて、岩手県知事とJAいわてグループとの「いわて純情野菜」トップセールスが盛大に開催されました。東京青果内でのセリ台前挨拶では、岩手県・達増知事をは

じめ、JA岩手県五連・藤尾会長、JA組合長(県内7JA)、大型野菜経営者協議会・高村会長、本会・畠山本部長ほか、文字通り県内のトップが参加し「いわて純情野菜」のPRがおこなわれました。

展示コーナーではキャベツ・ほうれん草などの葉菜類をはじめ、きゅうり・ピーマンなどの果菜類、菌床しいたけなどで各JAを代表する幅広い品目が展示されました。また、試食会も行われミニトマト・きゅうり・キャベツなど400食を提供し、お客様の反応も非常に好評で「いわて純情野菜」の新鮮さ、美味しさをPRすることが出来ました。「いわて純情むすめ」、「じゅんき君」、「いわて純農Boy」、「いわてまるごとおもてなし隊」も登場し場内の注目を集めました。



消費地販売部 消費地だより



今月のリポーター
消費地販売課
佐藤 亮太



セリ台前挨拶風景



達増知事と五連・藤尾会長によるPR

JAタウン

産地直送通販サイト

いわて純情館

注目の一品!



米粉麺2種を食べ比べ!

零石まいこめん(細麺)2種10食セット

米どころ、岩手県零石町の米農家「ファーム菅久」が丹精込めて育てたお米「たんたん米(ひとめぼれ)」を使用。ツルツルもちもち、おいしくヘルシーなオリジナル米粉麺(細麺タイプ)です。のどごしの良さは精米麺、香りの良さなら玄米麺。2つを混ぜて使うのもオススメです。サラダや炒めものにもどうぞ。



→付属のつゆでおそば風

←温玉ぶっかけ

JAタウン「いわて純情館」では純情ブランドを全国の食卓にお届けしています。

いわて純情館





出向く 活動班



今回の報告者
担い手サポートセンター
出向く活動班
菊池 規

JA岩手ふるさとへの 担い手支援活動について

今年度、JA岩手ふるさととの担い手支援に携わっていることから、JA岩手ふるさととの担い手支援活動についてご紹介をさせて頂きます。

担い手担当者の設置

JA岩手ふるさとと第七次中期経営計画における基本目標「農家所得確保を図る戦略的生産販売の実現」、「次世代にたく安心して暮らせる地域社会の実現」、「改革に挑戦する経営基盤の強化」の取組みに向け、今年度営農経済グループの



「農事組合法人 たなか」の経営状況調査



りんどう栽培の新規就農者へ激励訪問



JA担当と担い手サポート事業について検討!

出向く担い手リストの作成

JAの出向く担い手を明確にするため、営農・金融部門共通の担い手リストを作成しました(県下JA共通)。当JAにおいては、信用部門が作成したリストを基に営農部門の訪問リストを追加

部門間連携

し、出向く担い手リストを作成しました。

営農・金融部門合同で四半期ごとに「担い手農家情報共有連絡会」を開催し、担い手の情報共有を行っております。しかし、営農・金融両部門がそれぞれ同じ担い手を訪問することから、相手に迷惑を掛けたくないよう、各地域において営農・金融担当者の連携強化を更に徹底することとしました。「担い手農家情報共有連絡会」のメンバーは、金融・営農担当常務、金融共済・営農経済グループ統括、本所金融課・推進企画課・営農生活企画課、各地域センター・営農経済課長及び営農アドバイザー、各支店次長及び担い手金融リーダー、約30名。

リストアップ先への訪問活動

リストアップ先への訪問回数(年間目標)を次の通り設定しました。営農・生活アドバイザー(担い手担当者)は、5回以上、担い手金融リーダーは、個人農業者へ2回以上、個人メイン強化先及び農業法人アドバイザー先へ4回以上、法人メイン強化先へ3回以上実施する。また、営農・生活アドバイザーと担い手金融リーダーの同行訪問は年3日以上実施する。

農業担い手サポート事業の推進

農業担い手サポート事業の利用促進を図るため、要領ごとに担当部署を決め、推進活動を行っています。(新規就農者支援は営農生活企画課、生産基盤支援は園芸課、JAくらしの活動等支援は企画課等)

コスト低減モデル農家

JA岩手ふるさとにおけるコスト低減モデル農家として、「農事組合法人 大桜21」(前沢区：水稲236畝、大豆117畝)を選定しました。当法人で



「農事組合法人 大桜21」と実証圃の現地確認



「農事組合法人 大桜21」の帰化アサガオ類防除作業

は水田畦畔管理に労力を要していることと、面積の1/3を占める大豆作において帰化アサガオ類の発生が収量を確保する上で問題となっていることから、畦畔管理については除草剤の活用による省力化、帰化アサガオ類については県農業研究センターの指導を受け防除体系の確立を、それぞれJA全農いわて営農技術課とJAで取組んでおります。

以上、JA岩手ふるさととの担い手支援活動の一部を紹介させて頂きましたが、今後とも、JAいわてグループ農業担い手サポートセンターの取組みが、JA岩手ふるさととの担い手支援を通じて、農家組合員の所得増大、農業生産の拡大につながるようサポートして参ります。



純情むすめ 活動記

カレーで「いわて純情野菜」をPR!



2016いわて純情むすめ
田中舘 美咲

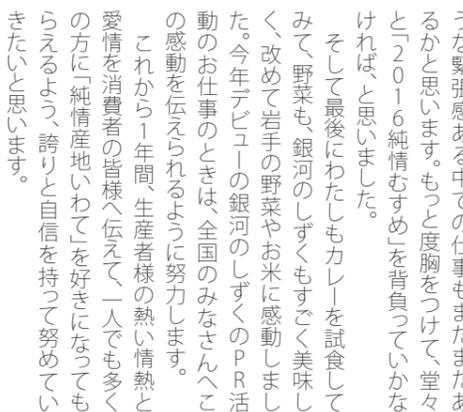
7月8日、JA全農いわて、県とハウス食品の共同企画である「純情産地いわてのズッキーニカレー」キャンペーンのPRとして、県庁を訪問させていただきました。純情むすめのお仕事としてはもちろん、私の人生の中で初めての県知事との対面でも緊張しました。

今回のお仕事では「純情産地いわてのズッキーニカレー」を県知事へ配膳しました。PR用の野菜の準備もすこしだけ手伝わせていただきました。今回の主役であるズッキーニ、そして玉ねぎ、ナス、トマト、野菜全て色や形が素晴らしく綺麗で生産者様の熱い情熱と愛情が伝わりました。私の実家でも同じ野菜を育てています。これ程までに美しく

きた野菜は見たことがありません。さすが、「純情ブランド」プロの技だと思いました。準備ができ、入念に打ち合わせをした後、試食会が始まりました。純情むすめとして席に座り、紹介をしていただきました。今回のお仕事は特にわたし自身が話すこともなく、お客様と接するようにならなこともなく、簡単のように思っていました。実際改まった場所へ行きざざと緊張してしまっていました。純情むすめとして、これからこのような緊張感ある中での仕事もまだまだあるかと思えます。もっと度胸をつけて、堂々と「2016純情むすめ」を背負っていかなければ、と思いました。

そして最後にわたしもカレーを試食してみ、野菜も、銀河のしずくもすごく美味しく、改めて岩手の野菜やお米に感動しました。今年デビューの銀河のしずくのPR活動のお仕事のときは、全国のみなさんへの感動を伝えられるように努力します。

これから1年間、生産者様の熱い情熱と愛情を消費者の皆様へ伝えて、一人でも多くの方に「純情産地いわて」を好きになってもらえるよう、誇りと自信を持って努めていきたいと思えます。



JA全農いわての 純情人

じゅん じょう びと

趣味・特技
映画鑑賞、アウトドアスポーツ

現在の担当業務
製品受渡業務、製品在庫管理、統計業務、下請(外注修理委託)発注管理

これからどんな職員になってみたいか
まだまだ未熟な点が多く、日々上司や農機センターの技術者から学ぶことが多いですが、今年度末には農業機械の基礎講習も受講する予定です、日々進化し続ける機械に遅れを取らないよう学んでいきたいです。また様々な製品・部品に触れながら、たくさんの専門知識を身につけ、それらを活かし、機械を通して農業の発展に貢献していきたいです。

農機事業部 農業機械課
みうら さとし
三浦 智史さん(19歳)

安心・安全・満足のサービスを届けるために

7月12日(火)

JA-SS 保安教育研修会 総合訓練

岩手県JA-SSチェーン本部はJAとおのライフサービス青笹SSにて、JA-SS保安教育研修会(総合訓練)を開催しました。遠野市消防本部遠野消防署の協力のもと開かれたこの研修会には、県内全44店舗の代表者や本会関係者など計71名が参加し、ブラインド訓練(台本のない実際の事故を想定した訓練)や講習会を行いました。全農北東北石油事業所の今野長博岩手推進課長は「私たちは安心・安全・満足をテーマにしています。安全に使ってもらうために訓練を続けていきたいです」と話しました。



ブラインド訓練の様子

食べる楽しさ伝えたい

7月13日(水)

こども食堂へ県産食材贈呈

JA全農いわては、盛岡市や滝沢市でこども食堂を運営するNPO法人いなほ(佐藤昌幸代表理事)に県産牛・豚肉約45kg、県産ひとめぼれ約85kg、炊飯器2台を贈りました。こども食堂は、様々な理由で満足な食生活を送ることができない子どもたちをサポートする取り組みです。

畠山俊彰県本部長は「県内には様々な事情を抱えた子どもがいます。食べる楽しさを伝えてほしいです」と目録を手渡しました。同法人の佐藤昌幸代表理事は「子どもたちにたくさん食べてもらうための活動に役立てたいです」と感謝の意を述べました。

活動は盛岡市みたけ地区と滝沢市牧野林地区での2か所で月1回開催予定。こども食堂では、継続的な運営をするため、募金の協力を呼び掛けています。



佐藤昌幸代表理事(左)に目録を手渡す畠山俊彰県本部長(右)

豪華景品をプレゼント!

7月13日(水)

「いわての牛乳月間キャンペーン2016」抽選会

JA全農いわては、県産牛乳の消費拡大を目的とした「いわての牛乳月間キャンペーン2016」の抽選会を開催しました。本キャンペーンは「牛乳月間」である6月中、牛乳に関するクイズに答えていただき、正解者の中から抽選で商品プレゼントするオープンキャンペーンとして毎年実施しているもの。今年度は、昨年実績を大きく上回る7567通の応募がありました。当選者には「4Kテレビ」や「圧力IHなべ」など豪華賞品を後日発送します。



たくさんのご応募ありがとうございました!

カレーで「いわて純情野菜」をPR!

7月8日(金)

「純情産地いわてのズッキーニカレー」キャンペーン

JA全農いわては7月1日から、ハウス食品株式会社・岩手県と共同で、県産野菜の消費拡大を目指した「純情産地いわてのズッキーニカレー」キャンペーンを開始しました。これにあたり8日、ハウス食品㈱の田中聡東北支店長、JA岩手県五連の藤尾東泉会長ら関係者が達増拓也県知事を表敬訪問。新たなテレビCMの発表や「純情産地いわてのズッキーニカレー」試食会を行い、キャンペーンをPRしました。カレーには、県内で生産拡大をすすめているズッキーニのほか、ナスやミニトマトなどの「いわて純情野菜」を使用。試食した達増知事は「ズッキーニはカレーに合いますね。とても美味しいです」とコメント。藤尾会長は「いわて純情野菜の美味しさを新発見できるメニュー」と話しました。

キャンペーンは2010年から始まり、県産野菜を使用したカレーレシピを毎年発表しています。テレビCMやスーパーの店頭でのレシピ紹介により、県産野菜の消費拡大を目指します。



純情産地いわてのズッキーニカレー



関係者ら記念撮影(中央、達増知事)

7月7日は乾しいたけの日

7月7日(木)

「おいしい!岩手の乾しいたけフェア2016」開催

岩手県産しいたけPRイベント「おいしい!岩手の乾しいたけフェア2016」が、7日からスタートしました。JR東日本盛岡支社が主催する「いわて食材発信プロジェクト」の一環として、JA全農いわてや県・しいたけ産業推進協議会など6組織が共同で企画したこのイベントでは、7月21日までの期間中、盛岡駅・フェザン・ホテルメトロポリタンニューウイングの対象14店舗で県産乾しいたけを使用したオリジナルメニューを提供します。7月7日は「乾しいたけの日」にちなみ、盛岡駅構内で即売会を実施。駅利用者へ県産乾しいたけの魅力をPRしました。県農林水産部の佐々木隆林業振興総括課長は「岩手の冷涼な気候を利用した肉厚で香りの良い乾しいたけは、全国的に高い評価を得ています。県民はもちろん国体で訪れる県外の方々にもアピールし、生産者の所得向上など力になれば」と意気込みを話しました。



即売会の様子



編集
後記

7月、純情農園は収穫の時期をむかえ、ズッキーニとトマトが山のようにとれています。とれた野菜は銀河食堂で使用するほか、サンビル1階「純情ステーション」で販売しています。今はトマトまっさかりですが、今後、トウモロコシやスイカ、エダマメなど様々

な野菜が登場する予定です。2016いわて純情むすめが出演する「じゃじゃじゃTV de純情農園」は毎月第4土曜日に放送中。ぜひ、ご覧ください! (千葉)

全農 もっと近くに

JA-SS

15th ありがとう15周年

元気満タンのJA-SSポイントラリー

おかげさまで15周年

15周年記念!! いわてのいいもの

プレゼントキャンペーン

15周年大感謝プレゼント! 合計 **300** 名さまに当たる!!

JA-SS 15周年記念 特別賞

農協観光 旅行券5万円分

プレゼント!

20名さま

A いわての温泉ペア宿泊券

40組 80名さま

- 1 豊宿温泉 長栄館
- 2 花巻温泉 紅葉館
- 3 盛岡つなぎ温泉ホテル紫苑
- 4 新安比温泉静流閣
- 5 志戸平温泉ホテル志戸平

B いわてのいいものプレゼント!

200名さま

- 1 いわちく「味工業」ハム詰合せギフト 乾塩熟成ベーコン・本格焼豚(冷蔵)
 - プリンスハム(薄切り)135g×3個 135g×3個
 - プリンスハム(厚切り)135g×3個 135g×3個
 - プリンスハム(薄切り)135g×3個 135g×3個
 - 本格焼豚1個×9420g
- 2 いわちくデリシャスハンバーグ3種セット(冷蔵)
 - プリンスハム(薄切り)135g×3個 135g×3個
 - プリンスハム(厚切り)135g×3個 135g×3個
 - プリンスハム(薄切り)135g×3個 135g×3個
- 3 いわちく高原育ちのフレッシュウイナー詰合せ(冷蔵)
 - 生ウイナー各160g(4本)×5種 [チーズ・ガーリック・パセリ・オニオン・ブラックペッパー] 超マスタード付
- 4 自園自醸ワイン紫液ウイン辛口・甘口2本セット
 - (高)カララメル・メルロー(辛口)ライトボディ(750ml)
 - (自)ワイルド・ストベリ
 - ミュウツールガヴ&カルナー(やや甘口)750ml)
- 5 わしの尾 純米酒セット
 - 純米酒 720ml 各1本

応募期間 6月1日(水)～8月31日(水)

特別賞 20名様・**A賞** 40組様・**B賞** 200名様 (抽選2016年9月) ■当選発表は発送をもってかえさせていただきます。 ■当選された方への商品発送は約1ヶ月程度かかります。

応募方法 **スタッフ 給油店** キャンペーン期間中1,000円お買い上げにつき1ポイント差し上げます。指定の応募券に20ポイント1口として、必要事項を明記の上、店頭にある応募箱にご応募ください。
セルフ 給油店 キャンペーン期間中のお買い上げレシート20,000円分を店頭にある指定の応募封筒に入れ、必要事項を明記の上、店頭にある応募箱にご応募ください。

JA-SS いわてJA-SSチェーン
 チェーン本部 / 当手県盛岡市上原川横長根4-21
 TEL.019-646-7283 URL http://www.junjo.jp/ja-ss/



私たちが全農グループは、生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋になります。

- 私たちは「安心」を3つの視点で考えます。
- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
 - 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
 - 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

